

宝塚  
医療生協

自分を省みる機会になった

メンタルヘルス学習会

毎年開催されているメンタルヘルスの学習会。今年は3月29日の昼と夜、2つのテーマに分かれて開催されました。

一部は「ラインケア」について。安全配慮義務やパワーハラスメントなど、主に管理者を対象とした内容を学習しました。ラインケアには、部下の「業務」をケアする業務的健康管理と、「メンタル」をケアする医療的健康管理の

2種類があり、よく部下の仕事での異変に気づいたり、相談があっても対応に困ったりしてしまう時がある。しかし、「職場は働く場所」であるということが大原則に、配慮や対応を考えていくことが大切だ、とありました。

また、二部は「セルフケア」について。こちらは職員を中心に約15名が参加しました。グループワークを取り入れながら、怒ったり悲しんだりしている人への、事務的な対応と相手の心に寄り添った対応の違いを学んだり、自分が苦手な人に対して「ここが嫌いだ」と思うのではなく、



「こういう所は好きだ」と、考え方をシフトすることで、相手への感じ方も変わってくることなどを教えていただきました。

参加された方からは「普段何気なくしている言動や態度を、改めて省みる機会になった」という感想がありました。

(高松診療所 前田秀輔)



東日本大震災から7年 被災地の現実を目のあたりに

クリエイト  
兵庫



慰霊の日のモニュメント (宮城県山元町)

3月9日から11日、宮城県と福島県へ被災者との懇談に行ってきました。

福島県では、原発事故による帰還困難区域の浪江町、その区域の指定を解除された地域へ行きました。除染作業は帰還困難区域では全く行われなそう、今でも4 μSv/時の場所がありました。

浪江町役場ではすぐ隣に商店街

ができており、震災の慰霊の前日だったこともあってそれぞれの店は非常に繁盛していました。しかしJR浪江駅はまだ片道しか開通しておらず、駅前の建物はほとんど解体される予定とのことで、たとえ住民が戻って来たとしても、駅前には何も無い状況になってしまうそうです。

毎年、クリエイト兵庫が秋のお祭りでタコ焼きを出店する宮城県山元町の花釜地区でみやぎ県南医療生協の組合員活動をされている方々と懇談しました。被災された

方々でも、福島県や放射能汚染のことは忘れる時も増えているようで、日常で、頭では「汚染はない」と分かっている、つい「福島産」と表示されている食べ物は、手に取ることをためらってしまうとのことでした。まだ福島県在住のご親戚の人が行方不明のままの方もおられ、搜索すら満足にできていない現状も知りました。

現地を自分の目で見てはじめて感じる喪失感があり、現地の方々の思いはそれこそ、いかばかりかと思いました。何とか今後の支援を継続していけるよう、今後の計画に自分も積極的に参加していきたいという思いで帰ってきました。

(介護センターにじ 加藤通世)

## 兵庫民医連新入職員研修会



# “命の平等” みんなで考え、 行動しよう!

「兵庫民医連の概要と歴史」「ようこそ民医連」「共同組織とともに」の三つの講演を受けて、恒例のグループワーク「民医連CMづくり」。それぞれの班で学びを深め合いながら一体となって、「民医連とは！誰のための組織！何を目標しているのか！」を発表しました。



4月13日(金)  
~14日(土)にか  
けて行われた新入職  
員研修会の感想文を  
紹介します。  
(2面に続く)